

朱德熙 (1982) の主語と目的語の関係について

An Analysis of Relation between Subject and Object in the Work of Zhu Dexi (1982)

青木 萌

要旨 本稿は朱德熙 (1982:111-112) の記述と用例を基に、現代中国語における主語と目的語の関係について論じた。主に、朱德熙 (1982:111-112) の用例に対し、述語論理 (predicate logic) と命題論理 (propositional logic) から成る論理式を用いて解析し、主語と目的語の関係を論理的に明らかにし、同時に、朱德熙 (1982:111-112) の見解が極めて周到であることを証明した。第一章では、朱德熙 (1982:111) の記述を基に、主語と目的語の関係について詳述した。第二章では、前章の解析を基に、目的語の有無により意味が異なる現象について検討した。第三章においては、多義によって生じる動作者と受動者の対立について詳述した。最後の第四章では、本稿の要点を確認した。

キーワード 主語、目的語、動作者、受動者、論理式

1. 主語・目的語と動作者・受動者の関係について

朱德熙 (1982:111) は主語と目的語の関係について以下のように述べている¹⁾。

「主語は動作者であるとは限らず、また目的語も受動者であるとは限らない。主語と目的語の区別は動作者と受動者の対立と理解してはならない。“玻璃擦了”(ガラスを磨いた)は主述構造だが、“玻璃”(ガラス)が受動者であるからといって目的語が前へ移動したと見なしてはならない。“来客人了”(お客が来た)は動目構造だが、“客人”(お客)が動作者であるからといって主語が後ろへ移動し、目的語が前へ移動した形式であると見なしてはならない。動作者と受動者の関係に基づいて主語と目的語を確定すると、“这间屋子住三个人”(この部屋には三人が泊まる)は主語が後ろへ移動し、目的語が前へ移動した形式だと言わなくてはならない。このような分析は明らかに合理的ではない」(“主語不一定是施事, 宾语也不一定是受事, 不能把主语和宾语的区理解为施事和受事的对立。“玻璃擦了”是主谓结构, 不能因为“玻璃”是受事, 就说它是宾语提前; “来客人了”是述宾结构, 不能因为“客人”是施事, 就说它是主语挪后。如果凭施受关系确定主宾语, 就得说“这间屋子住三个人”是主语挪后、宾语提前的格式。这种说法显然是不合理的)

そして朱德熙 (1982:111) は更に、

「主語、述語は統語的な概念である。動作者、受動者、間接関与者などといったものは意味的な概念である。両者は関係を有するが、一つの事ではなく、混同してはならない。我々がここで研究すべきことは、異なる統語構造における主語、目的語と動作者、受動者の間の関係である。」(主語、谓语是句法概念, 施事、受事、与事等等是语义概念, 这两方面虽然有联系, 但不是一回事, 不能混同。我们应该研究的是不同的句法结构里的主宾语和施事受事之间的关系。)

と主張し、“大鱼吃小鱼”と“小鱼吃大鱼”を例にして次のように説明している。

「“大鱼吃小鱼”(大きな魚は小さな魚を食べる)と“小鱼吃大鱼”(小さな魚は大きな魚を食べる)の意味は異なる。多くの状況からいうと、主語と目的語は同時に出現し、往々にして主語は動作者で、目的語は受動者である。」(“大鱼吃小鱼”和“小鱼吃大鱼”意思不一样。就大多数情况来说, 主语和宾语同时出现, 主语往往指施事, 宾语往往指受事)

しかし、朱德熙 (1982:111) は、以下に挙げる例 ((1) - (10)) においては、主語と目的語を担う成分の位

置が変わっても、動作者と受動者の関係は変わらない（可是在下边的例子里，充任主语和宾语的词交换位置以后，施受关系不发生变化）と述べた。

- (1) 行人走便道（歩行者は歩道を歩く）
- (2) 便道走行人（歩道は歩行者が歩く）
- (3) 人住北屋（人は北側の部屋に住む）
- (4) 北屋住人（北側の部屋に人が住む）
- (5) 十个人吃一锅饭（十人で一つの釜の飯を食べる）
- (6) 一锅饭吃十个人（一つの釜の飯で十人が食べる）
- (7) 你淋着雨没有（あなたは雨に濡れましたか）
- (8) 雨淋着你没有（雨はあなたを濡らしましたか）
- (9) 雨布盖着汽车（防水シートが車を覆っている）
- (10) 汽车盖着雨布（車に防水シートが覆ってある）

以下、朱德熙（1982:111）の記述を基に、(1) から (10) の例について詳しく解説してみよう。すなわち、(1) の“行人走便道”（歩行者は歩道を歩く）は、主語の“行人”が動作者で、目的語の“便道”が受動者である。(2) の“便道走行人”（歩道は歩行者が歩く）は、主語の“便道”が受動者で、目的語の“行人”が動作者である。(3) の“人住北屋”（人は北側の部屋に住む）は、主語の“人”が動作者で、目的語の“北屋”が受動者である。(4) の“北屋住人”（北側の部屋に人が住む）は、主語の“北屋”が受動者で、目的語の“人”が動作者である。(5) の“十个人吃一锅饭”（十人で一つの釜の飯を食べる）は、主語の“十个人”が動作者で、目的語の“一锅饭”が受動者である。(6) の“一锅饭吃十个人”（十人で一つの釜の飯を食べる）は、主語の“一锅饭”が受動者で、目的語の“十个人”が動作者である。(7) の“你淋着雨没有”（あなたは雨に濡れましたか）は、主語の“你”が受動者で、目的語の“雨”が動作者である。(8) の“雨淋着你没有”（雨はあなたを濡らしましたか）は、主語の“雨”が動作者で、目的語の“你”が受動者である。(9) の“雨布盖着汽车”（防水シートが車を覆っている）は、主語の“雨布”が動作者で、目的語の“汽车”が受動者である。そして、(10) の“汽车盖着雨布”（車に防水シートが覆ってある）は、主語の“汽车”が受動者で、目的語の“雨布”が動作者である、ということが看取できる。

従って、上で例示したように、主語と目的語の位置が変わっても動作者と受動者が変わらないということは、文中の話題（topic）が異なる、ということが推測できる²⁾。よって、ここで注目すべきことは、上で朱德熙（1982:111）が述べた「主語と目的語の位置が変わっても動作者と受動者が変わらない」という現象に対して、如何に論理的な説明を行えるか、ということであるといえる。だが、従来、これに関する論考は、管見の及ぶ限り見当たらない。そこで、本稿では、この現象に対して、述語論理と命題論理を用いた論理式による解析を通じて、より論理的な説明を試みたい。これにより、一つの文に包摂されている主語と目的語の間の意味的な関係、および、主語あるいは目的語とその他の成分との間の意味的な関係が明白となる。

次章では実際に論理式による解析を行うことにしたい。

1.1. 論理式による解析

以下、上記で例示した“玻璃擦了”、“来客人了”、“这间屋子住三个人”、“大鱼吃小鱼”、“小鱼吃大鱼”と (1) から (10) までの例に対して、論理式による解析を行う。まずは“玻璃擦了”を論理式で標記してみよう³⁾。“玻璃擦了”に含まれていると考えられる意味を全て取り出して式に表すと次のようになる。

1.1.1. “玻璃擦了”の論理式

- (11) 拭ク ~ガ ~ヲ 持ッ ~ガ ~ヲ
 有{玻璃,擦}(φ,玻璃)&有{擦}(φ,玻璃),了}
 持ッ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「ガラスという話題が、誰かがガラスを拭き、かつ、それ（誰かがガラスを拭く）が[発生]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“擦”(φ,玻璃)の部分の式は「誰かがガラスを拭く」

という意味を表し、“有’擦’ (ϕ , 玻璃), 了’” の部分の式は「誰かがガラスを拭くが[発生]という様態を持つ」という意を表している。

この論理式により、“玻璃” は上の (11) の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“玻璃” は“擦’ (ϕ , 玻璃)” の部分の論理式の第二項にも生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。また、“擦” の動作者は、“擦’ (ϕ , 玻璃)” の部分の論理式の第一項に“ ϕ ”が生起しているため、これが動作者であると理解することができる。

1.1.2. “来客人了” の論理式

(12) 来ル ~ガ 持ツ ~ガ ~ヲ

来’ (客人) & 有’来’ (客人), 了’

この論理式の読みは「お客が来て、かつ、それ(お客が来る)が[発生]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“来’ (客人)” の部分の式は「お客が来る」という意味を表し、“有’来’ (客人), 了’” の部分の式は「お客が来るが[発生]という様態を持つ」という意を表している。

この論理式により、“客人” は上の (12) の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“客人” は“来’ (客人)” の部分の論理式の第一項にも生起しているため、動作者の役割を担っていることが分かる。

1.1.3. “这间屋子住三个人” の論理式

(13) 泊マル ~ガ イル ~ガ ~ニ

有’这间屋子, 住’ (三个人) & 在’ (三个人, 这间屋子) }

持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「この部屋という話題が、三人が泊まり、かつ、その三人がこの部屋にいる、という評価表現を持つ」である。“住’ (三个人)” の部分の式は「三人が泊まる」という意味を表し、“在’ (三个人, 这间屋子)” の部分の式は「三人がこの部屋にいる」という意味を表している⁴⁾。

この論理式により、“这间屋子” は上の (13) の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“这间屋子” は“在’ (三个人, 这间屋子)” の部分の論理式の第二項にも生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。また、“三个人” は“住’ (三个人)” の部分の論理式の第一項に生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。

1.1.4. “大鱼吃小鱼” の論理式

(14) 食ベル ~ガ ~ヲ

有’大鱼, 吃’ (大鱼, 小鱼) }

持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「大きな魚という話題が、大きな魚が小さな魚を食べる、という評価表現を持つ」である。“吃’ (大鱼, 小鱼)” の部分の式は「大きな魚が小さな魚を食べる」という意味を表している。

この論理式により、“大鱼” は上の (14) の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“大鱼” は“吃’ (大鱼, 小鱼)” の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。また、“小鱼” は“吃’ (大鱼, 小鱼)” の部分の論理式の第二項に生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。

1.1.5. “小鱼吃大鱼” の論理式

(15) 食ベル ~ガ ~ヲ

有’小鱼, 吃’ (小鱼, 大鱼) }

持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「小さな魚という話題が、小さな魚が大きな魚を食べる、という評価表現を持つ」である。“吃’ (小鱼, 大鱼)” の部分の式は「小さな魚が大きな魚を食べる」という意味を表している。

この論理式により、“小鱼” は上の (15) の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っている

ことが分かる。同時に、“小鱼”は“吃'(小鱼, 大鱼)”の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。また、“大鱼”は“吃'(小鱼, 大鱼)”の部分の論理式の第二項に生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。

1.1.6. “行人走便道”の論理式

- (16) 歩ク ~ガ イル ~ガ ~ニ
有'行人, 走'(行人) & 在'(行人, 便道) }
持つ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「歩行者という話題が、歩行者が歩き、かつ、その歩行者が歩道にいる、という評価表現を持つ」である。“走'(行人)”の部分の式は「歩行者が歩く」という意味を表し、“在'(行人, 便道)”の部分の式は「歩行者が歩道にいる」という意味を表している。

この論理式により、“行人”は上の(16)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“行人”は“走'(行人)”の部分の論理式の第一項にも生起しているため、動作者の役割を担っていることが分かる。また、“便道”は“在'(行人, 便道)”の部分の論理式の第二項に生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。

1.1.7. “便道走行人”の論理式

- (17) 歩ク ~ガ イル ~ガ ~ニ
有'便道, 走'(行人) & 在'(行人, 便道) }
持つ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「歩道という話題が、歩行者が歩き、かつ、その歩行者が歩道にいる、という評価表現を持つ」である。“走'(行人)”の部分の式は「歩行者が歩く」という意味を表し、“在'(行人, 便道)”の部分の式は「歩行者が歩道にいる」という意味を表している。

この論理式により、“便道”は上の(17)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“便道”は“在'(行人, 便道)”の部分の論理式の第二項にも生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。また、“行人”は“走'(行人)”の部分の論理式の第一項に生起しているため、動作者の役割を担っていることが分かる。

1.1.8. “人住北屋”の論理式

- (18) 住ム ~ガ イル ~ガ ~ニ
有'人, 住'(人) & 在'(人, 北屋) }
持つ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「人という話題が、人が住み、かつ、その人が北側の部屋にいる、という評価表現を持つ」である。“住'(人)”の部分の式は「人が住む」という意味を表し、“在'(人, 北屋)”の部分の式は「人が北側の部屋にいる」という意味を表している。

この論理式により、“人”は上の(18)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“人”は“住'(人)”の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。また、“北屋”は“在'(人, 北屋)”の部分の論理式の第二項に生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。

1.1.9. “北屋住人”の論理式

- (19) 住ム ~ガ イル ~ガ ~ニ
有'北屋, 住'(人) & 在'(人, 北屋) }
持つ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「北側の部屋という話題が、人が住み、かつ、その人が北側の部屋にいる、という評価表現を持つ」である。“住'(人)”の部分の式は「人が住む」という意味を表し、“在'(人, 北屋)”の部分の式は「人が北側の部屋にいる」という意味を表している。

この論理式により、“北屋”は上の(19)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。また、“人”は“住'(人)”の部分の論理式の第一項に生起しているので、動作者の役割を担っていることが分かる。そして、“北屋”は“在'(人,北屋)”の部分の論理式の第二項にも生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。

1.1.10. “十个人吃一锅饭”の論理式

- (20) 食ベル ~ガ ~ヲ
有'{'十个人,吃'(十个人,一锅饭)}
持ッ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「十人という話題が、十人が一つの釜の飯を食べる、という評価表現を持つ」である。“吃'(十个人,一锅饭)”の部分の式は「十人が一つの釜の飯を食べる」という意味を表している。

この論理式により、“十个人”は上の(20)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“十个人”は“吃'(十个人,一锅饭)”の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。また、“一锅饭”は“吃'(十个人,一锅饭)”の部分の論理式の第二項に生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。

1.1.11. “一锅饭吃十个人”の論理式

- (21) 食ベル ~ガ ~ヲ
有'{'一锅饭,吃'(十个人,一锅饭)}
持ッ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「一つの釜の飯という話題が、十人が一つの釜の飯を食べる、という評価表現を持つ」である。“吃'(十个人,一锅饭)”の部分の式は「十人が一つの釜の飯を食べる」という意味を表している。

この論理式により、“一锅饭”は上の(21)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“一锅饭”は“吃'(十个人,一锅饭)”の部分の論理式の第二項にも生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。また、“十个人”は“吃'(十个人,一锅饭)”の部分の論理式の第一項に生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。

1.1.12. “你淋着雨没有”の論理式⁵⁾

- (22) 濡ラス ~ガ ~ヲ 持ッ ~ガ ~ヲ
有'[你,淋'(雨,你) & 有'{'淋'(雨,你),着}
持ッ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「あなたという話題が、雨があなたを濡らし、かつ、それ(雨があなたを濡らす)が[達成]という結果を持つ、という評価表現を持つ」である。“淋'(雨,你)”の部分の式は「雨があなたを濡らす」という意味を表し、“有'{'淋'(雨,你),着}”の部分の式は「雨があなたを濡らす[達成]という結果を持つ」という意を表している。

この論理式により、“你”は上の(22)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“你”は“淋'(雨,你)”の部分の論理式の第二項にも生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。また、“雨”は“淋'(雨,你)”の部分の論理式の第一項に生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。

1.1.13. “雨淋着你没有”の論理式⁶⁾

- (23) 濡ラス ~ガ ~ヲ 持ッ ~ガ ~ヲ
有'[雨,淋'(雨,你) & 有'{'淋'(雨,你),着}
持ッ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「雨という話題が、雨があなたを濡らし、かつ、それ(雨があなたを濡らす)が[達成]という結果を持つ、という評価表現を持つ」である。“淋'(雨,你)”の部分の式は「雨があなたを濡らす」という意味を表し、“有'{'淋'(雨,你),着}”の部分の式は「雨があなたを濡らす[達成]という結果を持つ」

という意を表している。

この論理式により、“雨”は上の(23)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“雨”は“淋'(雨,你)”の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。また、“你”は“淋'(雨,你)”の部分の論理式の第二項に生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。

1.1.14. “雨布盖着汽车”の論理式

- (24) 覆ウ ～ガ ～ヲ 持ツ ～ガ ～ヲ
有[雨布,盖'(雨布,汽车)&有'盖'(雨布,汽车),着]
持ツ ～ガ ～ヲ

この論理式の読みは「防水シートという話題が、防水シートが車を覆い、かつ、それ(防水シートが車を覆う)が[結果の持続]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“盖'(雨布,汽车)”の部分の式は「防水シートが車を覆う」という意味を表し、“有'盖'(雨布,汽车),着」の部分の式は「防水シートが車を覆うが[結果の持続]という様態を持つ」という意味を表している。

この論理式により、“雨布”は上の(24)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“雨布”は“盖'(雨布,汽车)”の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。また、“汽车”は“盖'(雨布,汽车)”の部分の論理式の第二項に生起しているため、受動者の役割を担っていることが分かる。

1.1.15. “汽车盖着雨布”の論理式

- (25) 覆ウ ～ガ ～ヲ 持ツ ～ガ ～ヲ
有[汽车,盖'(雨布,汽车)&有'盖'(雨布,汽车),着]
持ツ ～ガ ～ヲ

この論理式の読みは「車という話題が、防水シートが車を覆い、かつ、それ(防水シートが車を覆う)が[結果の持続]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“盖'(雨布,汽车)”の部分の式は「防水シートが車を覆う」という意味を表し、“有'盖'(雨布,汽车),着」の部分の式は「防水シートが車を覆うが[結果の持続]という様態を持つ」という意味を表している。

この論理式により、“汽车”は上の(25)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“汽车”は“盖'(雨布,汽车)”の部分の論理式の第二項にも生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。また、“雨布”は“盖'(雨布,汽车)”の部分の論理式の第一項に生起しているため、動作者の役割を担っていることが分かる。

さて、次章では、目的語の生起の有無により、意味が大きく異なる例について検討してみたい。

2. 目的語を伴うと意味が異なる現象について

まず、下記の朱德熙(1982:111-112)の見解と用例を見られたい。

「“我写了”と“我写信了”は動作者と受動者の関係において対立しない。これは一般的な状況だが、以下に挙げる例においては動詞が目的語を伴わないと意味が完全に異なる」(“我写了”和“我写信了”在施受关系上不对立,这是一般的情形,在下边举的例子中,动词带不带宾语,意思完全不同)

- (26) 孩子丢了(子供がいなくなった)
(27) 孩子丢了一只手套(子供は手袋を片方なくした)
(28) 他死了(彼は死んだ)
(29) 他死了父亲(彼は父親が死んだ)
(30) 北京队打败了(北京チームは負けた)
(31) 北京队打败了上海队(北京チームは上海チームを負かした)

以下、(26) - (31)の例について詳しく説明しておこう。

まず、(26) の“孩子丢了”における動詞の“丢”の後には目的語が生起していないが、(27) の“孩子丢了一只手套”における動詞“丢”の後には“一只手套”という目的語が生起している。故に、(26) における動詞“丢”の意味は「いなくなる」だが、(27) における動詞“丢”の意味は「なくす」といった解釈となる。

次に、(28) の“他死了”における動詞の“死”の後には目的語が生起していないので、“他”が動作者として「死ぬ」ということが理解できる。一方、(29) の“他死了父亲”における動詞“死”の後には“父亲”という目的語が生起しているため、この“父亲”が「死ぬ」ということが分かる。

そして、(30) の“北京队打败了”における動詞の“打败”の後には目的語が生起していないため、“北京队”が「負けた」と解釈できるが、(31) の“北京队打败了上海队”における動詞“打败”の後には“上海队”という目的語が生起しているため、(31) は「北京チーム」が勝って、「上海チーム」が負ける、即ち、「北京チームが上海チームを負かした」と解しえる。

では、これを踏まえて、以下では上の (26) - (31) を論理式で表記してみたい。

2.1. 論理式による解析

2.1.1. “我写了”の論理式

(32) 書ク ~ガ ~ヲ 持ツ ~ガ ~ヲ
有[我, 写'(我, ϕ) & 有'写'(我, ϕ), 了]
持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「私という話題が、私が何かを書き、かつ、それ（私が何かを書く）が[発生]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“写'(我, ϕ)”の部分の式は「私が何かを書く」という意味を表し、“有'写'(我, ϕ), 了」の部分の式は「私が何かを書くが[発生]という様態を持つ」という意を表している。

この論理式により、“我”は上の (32) の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“我”は“写'(我, ϕ)”の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。また、“写”の受動者は“写'(我, ϕ)”の部分の論理式の第二項に「何か」の意味を表す“ϕ”が生起しているため、これが受動者であると理解することができる。

2.1.2. “我写信了”の論理式

(33) 書ク ~ガ ~ヲ 持ツ ~ガ ~ヲ
有[我, 写'(我, 信) & 有'写'(我, 信), 了]
持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「私という話題が、私が手紙を書き、かつ、それ（私が手紙を書く）が[発生]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“写'(我, 信)”の部分の式は「私が手紙を書く」という意味を表し、“有'写'(我, 信), 了」の部分の式は「私が手紙を書くが[発生]という様態を持つ」という意を表している。

この論理式により、“我”は上の (33) の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“我”は“写'(我, 信)”の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。また、“信”は“写'(我, 信)”の部分の論理式の第二項に生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。

2.1.3. “孩子丢了”の論理式

(34) イナクナル ~ガ ~ヲ 持ツ ~ガ ~ヲ
有[孩子, 丢'(孩子) & 有'丢'(孩子), 了]
持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「子供という話題が、子供がいなくなり、かつ、それ（子供がいなくなる）が[発生]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“丢'(孩子)”の部分の式は「子供がいなくなる」という意味を表し、“有'丢'(孩子), 了」の部分の式は「子供がいなくなるが[発生]という様態を持つ」という

意を表している。

この論理式により、“孩子”は上の(34)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“孩子”は“丢'(孩子)”の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。

2.1.4. “孩子丢了一只手套”の論理式

- (35) ナクス ~ガ ~ヲ 持ツ ~ガ ~ヲ
有[孩子,丢'(孩子,一只手套)&有'丢'(孩子,一只手套),了]
持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「子供という話題が、子供が手袋を片方なくし、かつ、それ(子供が手袋を片方なくす)が[完了]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“丢'(孩子,一只手套)”の部分の式は「子供が手袋を片方なくす」という意味を表し、“有'丢'(孩子,一只手套),了」の部分の式は「子供が手袋を片方なくすが[完了]という様態を持つ」という意を表している⁷⁾。

この論理式により、“孩子”は上の(35)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“孩子”は“丢'(孩子,一只手套)”の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。また、“一只手套”は“丢'(孩子,一只手套)”の部分の論理式の第二項に生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。

2.1.5. “他死了”の論理式

- (36) 死ヌ ~ガ 持ツ ~ガ ~ヲ
有[他,死'(他)&有'死'(他),了]
持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「彼という話題が、彼が死に、かつ、それ(彼が死ぬ)が[発生]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“死'(他)”の部分の式は「彼が死ぬ」という意味を表し、“有'死'(他),了」の部分の式は「彼が死ぬが[発生]という様態を持つ」という意を表している。

この論理式により、“他”は上の(36)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“他”は“死'(他)”の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。

2.1.6. “他死了父亲”の論理式

- (37) 持ツ ~ガ ~ヲ 死ヌ ~ガ 持ツ ~ガ ~ヲ
有[他,有'(他,父亲)&死'(父亲)&有'死'(父亲),了]
持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「彼という話題が、彼が父親を有し、かつ、その父親が死に、かつ、それ(父親が死ぬ)が[完了]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“有'(他,父亲)”の部分の式は「彼が父親を有する」という意味を表し、“死'(父亲)”の部分の式は「父親が死ぬ」という意を表し、“有'死'(父亲),了」の部分の式は「父親が死ぬが[完了]という様態を持つ」という意味を表している。

この論理式により、“他”は上の(37)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。また、“父亲”は“死'(父亲)”の部分の論理式の第一項に生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。

2.1.7. “北京队打败了”の論理式

- (38) 負ケル ~ガ 持ツ ~ガ ~ヲ
有[北京队,打败'(北京队)&有'打败'(北京队),了]
持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「北京チームという話題が、北京チームが負け、かつ、それ(北京チームが負ける)が[発生]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“打败'(北京队)”の部分の式は「北京チームが負け

る」という意味を表し、「有『打败』(北京队),了』」の部分の式は「北京チームが負けるが[発生]という様態を持つ」という意を表している。

この論理式により、「北京队」は上の(38)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、「北京队」は「打败』(北京队)」の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。

2.1.8. “北京队打败了上海队”の論理式

(39) 負カス ~ガ ~ヲ 持ツ ~ガ ~ヲ
有『北京队,打败』(北京队,上海队) & 有『打败』(北京队,上海队),了』
持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「北京チームという話題が、北京チームが上海チームを負かし、かつ、それ(北京チームが上海チームを負かす)が[完了]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。「打败』(北京队,上海队)」の部分の式は「北京チームが上海チームを負かす」という意味を表し、「有『打败』(北京队,上海队),了』」の部分の式は「北京チームが上海チームを負かすが[完了]という様態を持つ」という意を表している。

この論理式により、「北京队」は上の(39)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、「北京队」は「打败』(北京队,上海队)」の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。また、「上海队」は「打败』(北京队,上海队)」の部分の論理式の第二項に生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。

次の第三章では、多義により、動作者と受動者の対立が生じる現象について考えてみたい。

3. 多義による動作者と受動者の対立について

朱德熙 (1982:112) は、「不吃糖」(飴を食べない)と「糖不吃了」(飴は食べない)は動作者と受動者の関係において対立しない(「不吃糖」和「糖不吃了」在施受关系上也不对立)と述べた。この不对立については、論理式で表記すると一目瞭然である。以下「不吃糖」と「糖不吃了」の論理式を順番に見られたい。

3.1. “不吃糖”の論理式

(40) 食ベル ~ガ ~ヲ
有『φ,吃』(φ,糖)』
持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「飴という話題が、誰かが飴を食べない、という評価表現を持つ」である。「吃』(φ,糖)」の部分の式は「誰かが飴を食べる」という意味を表している。

この論理式により、主語が省略されているのが分かる。また、「吃」の動作者は、「吃』(φ,糖)」の部分の論理式の第一項に「φ」が生起しているため、これが動作者であると理解することができる。そして、「糖」は「吃』(φ,糖)」の部分の論理式の第二項に生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。

3.2. “糖不吃了”の論理式

(41) 食ベナイ ~ガ ~ヲ 持ツ ~ガ ~ヲ
有『糖,不食』(φ,糖) & 有『不食』(φ,糖),了』
持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「飴という話題が、誰かが飴を食べず、かつ、それ(誰かが飴を食べない)が[発生]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。「不食』(φ,糖)」の部分の式は「誰かが飴を食べない」という意味を表し、「有『不食』(φ,糖),了』」の部分の式は「誰かが飴を食べないが[発生]という様態を持つ」という意を表している。

この論理式により、「糖」は上の(41)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、「糖」は「不食』(φ,糖)」の部分の論理式の第二項にも生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。また、「不吃」の動作者は、「不食』(φ,糖)」の部分の論理式の第一項に「φ」が生起し

ているので、これが動作者であると理解できる。

引き続き、朱徳熙(1982:112)の見解を引用する。

「しかし、“不吃鸡”(鶏を食べない)と“鸡不吃了”(鶏は食べない)の場合は異なる。なぜなら“鸡不吃了”は多義的であるからである。つまり、“鸡”は受動者である可能性もあるし、また、動作者として“鸡不吃米了”(鶏は米を食べない)と分析する可能性もある。後者の意味においては、“鸡不吃了”(鶏は食べない)は“不吃鸡”(鶏を食べない)と対立する」(可是“不吃鸡”和“鸡不吃了”情形就不一样,因为“鸡不吃了”有歧义。“鸡”可以是受事,也可以是施事(鸡不吃米了)。在后一种意义上跟“不吃鸡”是对立的)

では、上で挙げた朱徳熙(1982:112)の記述と用例を基に、論理式による解析を行うことにしたい。この解析を経ることで、朱徳熙(1982:112)の見解の信憑性がより確かなものとなる。まずは“不吃鸡”を論理式で書いてみよう。

3.3.“不吃鸡”の論理式

(42) 食ベル ~ガ ~ヲ

有{φ,吃'(φ,鸡)}

持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「鶏という話題が、誰かが鶏を食べる、という評価表現を持つ」である。“吃'(φ,鸡)”の部分の式は「誰かが鶏を食べる」という意味を表している。

この論理式により、話題が省略されているのが分かる。また、“吃”の動作者は“吃'(φ,鸡)”の部分の論理式の第一項に“φ”が生起しているので、これが動作者であると判断できる。また、“鸡”は“吃'(φ,鸡)”の部分の論理式の第二項に生起し、受動者の役割を担っていることが看取できる。

さて、今度は受動者の“鸡”が主語となり、“鸡不吃了”(鶏は食べない)という意味を表す場合の論理式を表示する。

3.4.“鸡不吃了”(“鸡”が受動者)の論理式

(43) 食ベナイ ~ガ ~ヲ 持ツ ~ガ ~ヲ

有{鸡,¬吃'(φ,鸡) & 有{¬吃'(φ,鸡),了}}

持ツ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「鶏という話題が、誰かが鶏を食べず、かつ、それ(誰かが鶏を食べない)が[発生]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“¬吃'(φ,鸡)”の部分の式は「誰かが鶏を食べない」という意味を表し、“有{¬吃'(φ,鸡),了}”の部分の式は「誰かが鶏を食べないが[発生]という様態を持つ」という意を表している。

この論理式により、“鸡”は上の(43)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“鸡”は“¬吃'(φ,鸡)”の部分の論理式の第二項にも生起し、受動者の役割を担っていることが分かる。また、“不吃”の動作者は、“¬吃'(φ,鸡)”の部分の論理式の第一項に“φ”が生起しているため、これが動作者であると理解できる。

次の(44)の式は“鸡”が動作者として“鸡不吃了”(鶏は(何かを)食べない)という意味を表す場合のものである。

3.5.“鸡不吃了”(“鸡”が動作者)の論理式

(44) 食ベナイ ~ガ ~ヲ 持ツ ~ガ ~ヲ

有{鸡,¬吃'(鸡,φ) & 有{¬吃'(鸡,φ),了}}

持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「鶏という話題が、鶏が何かを食べず、かつ、それ(鶏が何かを食べない)が[発生]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“¬吃'(鸡,φ)”の部分の式は「鶏が何かを食べない」という意味を表し、“有{¬吃'(鸡,φ),了}”の部分の式は「鶏が何かを食べないが[発生]という様態を持つ」という意を表している。

この論理式により、“鸡”は上の(44)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“鸡”は“一吃'(鸡, φ)”の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。また、“不吃”の受動者は、“一吃'(鸡, φ)”の部分の論理式の第二項に“φ”が生起しているため、これが受動者であると見なしえる。従って、目的語を加えた“鸡不吃米了”(鶏は米を食べない)の場合は以下の(45)のような式となる。

3.6. “鸡不吃米了”の論理式

(45) 食ベナイ ~ガ ~ヲ 持ツ ~ガ ~ヲ
 有[鸡, 一吃'(鸡, 米) & 有{一吃'(鸡, 米), 了}]
 持ツ ~ガ ~ヲ

この論理式の読みは「鶏という話題が、鶏が米を食べず、かつ、それ(鶏が米を食べない)が[発生]という様態を持つ、という評価表現を持つ」である。“一吃'(鸡, 米)”の部分の式は「鶏が米を食べない」という意味を表し、“有{一吃'(鸡, 米), 了}”の部分の式は「鶏が米を食べないが[発生]という様態を持つ」という意を表している。

この論理式により、“鸡”は上の(45)の論理式の第一項に生起し、主語として話題の役割を担っていることが分かる。同時に、“鸡”は“一吃'(鸡, 米)”の部分の論理式の第一項にも生起し、動作者の役割を担っていることが分かる。また、“不吃”の受動者は、“一吃'(鸡, 米)”の部分の論理式の第二項に“米”が生起しているため、これが受動者であると見なしえる。

4. 結びにかえて

最後に本稿の要点を確認しておこう。本稿は朱德熙(1982:111-112)の記述と用例を基に、現代中国語における主語と目的語の関係について論じた。主として、朱德熙(1982:111-112)の用例に対して、述語論理と命題論理から成る論理式を用いて解析し、主語と目的語の関係を論理的に明らかにし、同時に、朱德熙(1982:111-112)の見解が極めて周到であることを証明した。第一章では、主語と目的語の関係について朱德熙(1982:111)の記述を基にしながら、詳述した。第二章では、前章の解析を基に、目的語の有無により意味が異なる現象について検討した。第三章においては、多義によって生じる動作者と受動者の対立について詳述した。

注

- 1) 本稿の中国語に対する日本語訳および下線は全て筆者による。
- 2) 朱德熙(1982:96)の話題については青木(2017)を見られたい。
- 3) 論理式についての詳述は青木(2015)および松村(2017)を見られたい。なお、本稿の論理式における“φ”「ファイ」は不特定の動作者あるいは受動者を表す記号として用いることとする。
- 4) “住'(三个人) & 在'(三个人, 这间屋子)”の式は、より厳密に“住'(人) & 有'(人, 三个) & 有'(三个, 这间屋子)”と書き、「人が泊まり、かつ、その人が三人という数量を持ち、かつ、その三人という数量がこの部屋にいる」と読むことができるが、複雑になるため、簡略表記した。
- 5) “你淋着雨没有”に対する論理式は、“没有”を含めて疑問文として考えると、論理式が複雑になり、論点がずれるので、本稿の問題と直接関係する“你淋着雨”の部分だけを論理表記することにする。
- 6) “雨淋着你没有”に対する論理式は、“没有”を含めて疑問文として考えると、論理式が複雑になり、論点がずれるので、本稿の問題と直接関係する“雨淋着你”の部分だけを論理表記することにする。
- 7) “丢'(孩子, 一只手套)”の式は、より厳密に“丢'(孩子, 手套) & 有'(手套, 一只)”と書き、「子供が手袋を持ち、かつ、その手袋が一つという数量を持つ」と読むことができるが、複雑になるため、簡略表記した。

参考文献

青木萌(2015)「現代中国語における副詞“在”の意味と論理」『言語と文化論集』(特別号) 神奈川大学大学

院外国語学研究科.

青木萌 (2017) 「朱德熙 (1982) における「話題」について」『言語と文化論集』(第23号) 神奈川大学大学院
外国語学研究科.

朱德熙著、杉村博文・木村英樹訳 (1998) 『文法講義』 白帝社.

松村文芳 (2017) 『現代中国語の意味論序説』(神奈川大学言語学研究叢書 8) ひつじ書房.

朱德熙 (1982) 『语法讲义』 商务印书馆.

Chao, Yuenren. (2011 (1968)) A Grammar of Spoken Chinese. 商务印书馆.

長崎短期大学研究倫理委員会承認【19-短倫-07】